

Open!
Meiji



第150期 中間期
株主レポート

平成20年4月1日～平成20年9月30日

● 経営の基本方針

当社グループは、「食と健康」に関わる事業領域を基盤とし、長年培ってきた技術や **Meiji** ブランドを最大限に活かしながらグローバルな企業として、お客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、常に「おいしい・楽しい、健康、安心」を追求するとともに、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

CONTENTS

株主の皆様へ	1
事業の概況（連結）	2
業績の推移／連結子会社	5
中間連結貸借対照表	6
中間連結損益計算書 ／中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
中間貸借対照表（単独）	8
中間損益計算書（単独）	9
新製品紹介	10
Meiji News	12
トピックス	16
役員／従業員／主要な事業所	19
株式の状況	20
株主メモ	21

DASH!08（06-08中期経営計画）

- 1** **Meiji** ブランドが、「おいしい・楽しい」「健康」「安心」というイメージで、お客様から広く認知されている。
- 2** 健康事業の育成を最優先課題とし、薬品カンパニーとの連携も含めた食薬兼業の強みを活かせるビジネスモデルを確立している。
- 3** ジェネリック（後発医薬品）事業を感染症・中枢神経系領域に並ぶ柱として強化し、「スペシャリティ&ジェネリック・ファーマ」という新しいモデルを確立している。
- 4** 海外事業を大幅に強化し、国内と同等の売上を海外で稼ぎ出すための足がかりを築いている。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は平成20年9月30日をもちまして、第150期事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の中間期（平成20年4月～9月期）を終了しましたので、事業の概況等をご報告申し上げます。

今年度は、当社グループの中期経営計画の最終年度となり、その達成に向けて、菓子の新商品開発や既存ブランドを活かしたマーケティング展開、重点拡大分野である「健康関連」「ジェネリック（後発医薬品）」「海外事業」への取組みを引き続き進めてまいります。

フード&ヘルスケア事業におきましては、原材料価格の高騰、店頭での競争激化など大変厳しく、また昨今の食の「安全・安心」に対する意識の高まりから、厳格な品質管理体制が求められておりますが、お客様の視点に立った差別性のある新商品開発・ブランド戦略の展開、海外事業の強化を図ってまいります。

薬品事業におきましては、医療用医薬品、農薬・動物薬ともに主力品目を中心に着実な学術普及活動と営業活動を展開し、さらに、研究体制の見直し、販売費の節減、製造固定費の削減等の収支構造改善に向けたコスト低減を図ってまいります。

また、既に発表されておりますとおり、当社は平成21年4月1日をもって明治乳業株式会社（以下「明治乳業」）と株式移転により設立される共同持株会社のもとに経営統合を行うこととしております。

当社と明治乳業とは、歴史的な関係に加えて、これまでも商品の共同開発を行うなど、良好な協力関係を築いてまいりました。今後は両社の経営統合を通じてお互いが有する「ブランド力」、「研究開発力」、「技術力」、「マーケティング力」等の経営資源を最大限に活用することにより、両社が共通して追求してきた価値＝「おいしい・楽しい」、「健康・栄養」、「安全・安心」をあらゆる世代のお客様へ提供することで、世界有数の「食と健康」企業グループへの発展を図ってまいります。

統合により期待する効果として、主に以下の5項目を掲げ早期の具現化に向けて取り組んでまいります。

- (1) 統合された新生「明治」ブランドの価値向上および既存事業の強化
- (2) 新たな需要の創造による事業成長機会の拡大
- (3) マーケティング力強化による競争力向上
- (4) 業務効率化とコストシナジー
- (5) 事業基盤・財務基盤の優位性強化

菓子および乳業の事業領域でそれぞれにリーディングカンパニーとしてお客様の強い支持と信頼を得てきた両社が、従来の協力関係を経営統合という形でさらに発展させることで、より大きな成長機会を獲得できるものと確信しております。

引き続きご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株につき金3円50銭と決定させていただきましたので、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月



代表取締役社長 佐藤尚忠

事業の概況（連結）

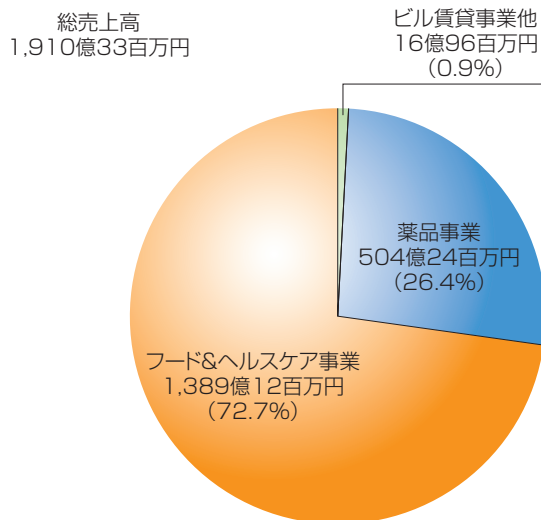
（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）

当中間期における当社グループの連結売上高は1,910億33百万円（前年同期比2.1%増）となりました。利益につきましては、原材料高騰、薬価改定等の厳しい影響を受け、経常利益は20億26百万円（同45.0%減）、中間期の純利益は2億97百万円の損失（前年同期純利益24億円）となりました。

当社グループの事業別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当中間期の連結子会社は、5ページに記載しております。

●売上高構成比（当中間期）



フード&ヘルスケア事業の連結売上高は1,389億12百万円（前年同期比3.7%増）となりました。

菓子事業につきましては、主力カテゴリーでは、効果的な販促活動により全体として前年同期並みに推移しました。チョコレートは、全体として堅調な動きとなりました。主力商品では、価格改定・内容量変更を実施した「ミルクチョコレート」、「きのこの山」、「たけのこの里」

が好調に推移しました。「ガルボ」は「ガルボチップス」など新商品が寄与し大幅な増売となりました。ガムは、主力の「キシリッシュ」がボトルタイプは好調でしたが、全体では前年同期を下回りました。キャンデーは、発売20周年の「果汁グミ」が引き続き増売となるなど、好調に推移しました。

健康事業につきましては、宣伝普及活動の推進と店頭露出の強化により、全体として前年同期を上回りました。健康・美容分野では、「アミノコラーゲン」



が新CMの販促効果や高付加価値商品「プレミアム」の新発売により、競争激化のなか好調に推移しました。「ザバス」は減売となりましたが、「パーフェクトプラス」は、ラインアップ強化と露出拡大により大きく伸長しております。食品分野では、



新製法の「コクがおいしいミルクココア」を新発売しました。粉末タイプに加え、ドリンクタイプ（株式会社ポッカコーポレーションとの共同開発商品第一弾）をラインアップし、冬季の最需要期に向けて市場の活性化に努めております。

OTC（一般用医薬品）では、主力の「イソジンうがい薬」がフル

ーティーで苦味や刺激を抑えた新商品の発売により好調に推移しました。

海外事業につきましては、輸出は、台湾・シンガポール向けに「果汁グミ」、「グミチョコ」の販売が拡大するとともに、各国での販売促進を積極的に展開し、全体として大きく



伸長しました。輸入は、主力商品「スナイダース」が引き続き大きく売上を伸ばしました。スタウファー・ビスケット社は、ウォルマート向け販売が順調に推移したものの、円高の影響もあり減売となりました。メイジセイカ・シンガポール社は、



「ハローパンダ」など主力品が現地販売、輸出ともに好調に推移しましたが、明治制菓（上海）有限公司は、減売となりました。

フードクリエイイト事業につきましては、業務用食材は、製菓材（チョコレート・ココア関連商品）が、外食チェーン・製菓メーカーへの積極的な商品提案により伸長しました。食材は農産品や缶詰、業務用カレーが順調に推移しました。

国内連結子会社の株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖事業、糖化穀粉事業が伸長し増売となりました。

■菓子事業主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ブラック、ハイミルク、ホワイト、ストロベリー、ノワール、ガトーチョコレート、ショパン、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、マカダミア、フラン、きのこの山、たけのこの里、北海道チョコポテト、ガルボ、ホルン、レガ、プッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソート、ヤンヤンほか）、ガム（キシリッシュほか）、キャンデー（チェルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ぷぷるん、KAON、ポイフル、もぎもぎフルーツ、サイコロキャラメルほか）、スナック（カール、カールスティック、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）

■健康事業（一般用医薬品含む）・業務用食材事業主要製品

アミノコラーゲン、ザバス、カシス-i、パーフェクトプラス、プロテインダイエット、ローラ、コクがおいしいミルクココア、テオプロココア、ハイレモンドリンク、銀座カリイ、銀座ハヤシ、まるごと野菜、JALスープ、おでんの素、麦茶ジャーミー、農産缶詰ほか
イソジンうがい薬、イソジンウォッシュ、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルビックS顆粒、ミニドリンク剤活夢28ほか
業務用菓子・食品材料、砂糖、糖化製品ほか

薬品事業の連結売上高は504億24百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

医療用医薬品は、本年4月に実施された薬価改定の影響が大きく、減売となりました。特に、主力の抗菌薬「メイアクト」および抗うつ薬「デプロメール」については、通常の薬



価改定に加え特例引下げの対象となったこともあり減売となりました。一方、ジェネリック医薬品は、本年4月からの政府の使用促進策をにらんだ取組みが

追い風となり、既存品が順調に伸長しました。加えて、大型ジェネリック医薬品として注目を集めていたカルシウム拮抗薬「アムロジピン錠 明治」は、本年7月の発売以降好調に売上を伸ばし、全体として大幅な増売となりました。



農薬は、競合品の攻勢やいもち病および害虫の発生が少なく、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が前年同期を下回り、全体でも減売となりました。動物薬は、飼料原料高騰による買い控えの影響などにより家畜用薬や水産用薬が減売となりましたが、飼料メーカー向け栄養剤やコンパニオンアニマル用薬などの増売でこれを吸収し、全体で前年同期並みの売上となりました。



海外事業につきましては、主力の「メイアクト」が、発売国の増加などにより、欧州を中心に大幅に売上を伸ばし、全体として好調に推移しました。スペインのテデック・メイジ・ファルマ社は、現地向け販売および輸出が前期を下回り減売となりましたが、東南アジアのメイジ・インドネシア・ファーマシューティ



カル社およびタイ・メイジ・ファーマシューティカル社は、順調な現地向け販売を中心に増売となりました。なお、中国の明治魯抗医薬有限公司が新たに連結対象会社となり売上の伸長に寄与しております。

■薬品事業主要製品

- | | |
|------------|---|
| 医療用
医薬品 | 抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシンほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒剤イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍剤テラルピシン、抗ウイルス化学療法剤ビクロックス、カルシウム拮抗薬アムロジピン 明治ほか）、人体用ワクチン |
| 農薬
動物薬 | 農薬（Dr.オリゼプリンズ、オリゼメート、ハービー、アグレプト、ジベレリンほか）、動物薬（メイボール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、ポセイドン、マリンバンテル、パナメクチンチュアブルP、ウェルメイトL3ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか） |

ビル賃貸事業他

ビル賃貸事業他の連結売上高は16億96百万円（前年同期比11.1%増）となりました。主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」は高入居率を維持し、堅調に推移しました。



ソリッドスクエアビル

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成20年9月30日現在)	前 期 (平成20年3月31日現在)	科 目	当中間期 (平成20年9月30日現在)	前 期 (平成20年3月31日現在)
資産の部	345,357	348,609	負債の部	192,056	193,498
流動資産	146,941	149,550	流動負債	112,196	90,692
現金および預金	12,493	11,802	支払手形および買掛金	31,443	31,185
受取手形および売掛金	68,580	78,834	短期借入金	20,107	15,569
たな卸資産	53,649	47,667	社債(1年以内償還)	20,000	—
繰延税金資産	6,807	7,136	コマーシャルペーパー	5,000	6,000
その他	5,446	4,142	未払費用	12,028	12,506
貸倒引当金	△ 36	△ 31	未払法人税等	1,143	2,982
固定資産	198,416	199,059	賞与引当金	4,020	3,931
有形固定資産	150,333	145,554	返品調整引当金	350	369
建物および構築物	77,178	75,995	売上割戻引当金	4,821	5,213
機械装置および運搬具	44,199	40,000	その他の他	13,281	12,934
工具器具備品	2,298	2,156	固定負債	79,859	102,805
土地	24,459	24,486	社債	35,000	55,000
リース資産	298	—	長期借入金	20,686	21,377
建設仮勘定	1,898	2,915	長期繰延税金負債	10,414	11,422
無形固定資産	4,565	6,078	退職給付引当金	10,582	11,205
のれん	1,726	2,855	役員退職慰労引当金	213	236
その他	2,838	3,223	その他の他	2,964	3,562
投資その他の資産	43,518	47,426	純資産の部	153,301	155,111
投資有価証券	39,806	42,827	株主資本	142,027	144,087
長期繰延税金資産	431	361	資本金	28,363	28,363
その他	4,198	5,155	資本剰余金	34,945	34,947
貸倒引当金	△ 917	△ 917	利益剰余金	82,273	84,306
資産合計	345,357	348,609	自己株式	△ 3,555	△ 3,530
			評価・換算差額等	5,927	7,171
			その他有価証券評価差額金	7,823	8,631
			繰延ヘッジ損益	△ 1,866	△ 1,886
			為替換算調整勘定	△ 28	425
			少数株主持分	5,346	3,852
			負債および純資産合計	345,357	348,609

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 233,555百万円 228,347百万円
 2. 手形割引高および裏書譲渡高 198百万円 99百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)
売上高	191,033	187,087
売上原価	114,467	109,096
返品調整引当金戻入額	20	40
売上総利益	76,586	78,030
販売費および一般管理費	74,790	74,314
営業利益	1,795	3,716
営業外収益	1,306	1,442
受取利息・配当金	570	709
持分法による投資利益	—	27
その他の営業外収益	735	705
営業外費用	1,075	1,470
支払利息	823	732
持分法による投資損失	102	—
その他の営業外費用	148	737
経常利益	2,026	3,688
特別利益	185	1,855
固定資産売却益	166	1,371
投資有価証券売却益	—	423
その他の特別利益	18	61
特別損失	1,040	677
固定資産廃棄損	395	564
投資有価証券評価損	258	—
その他の特別損失	386	112
税金等調整前中間純利益	1,171	4,867
法人税、住民税および事業税	1,048	1,165
法人税等調整額	197	1,160
少数株主利益	222	140
中間純利益	—	2,400
中間純損失	297	—

(注) 1株当たりの中間純利益 — 6円33銭

1株当たりの中間純損失 78銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	8,038	6,120
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 8,974	△ 10,059
財務活動による キャッシュ・フロー	772	△ 3,071
現金および 現金同等物に係る換算差額	△ 53	△ 14
現金および 現金同等物の増減額(減少：△)	△ 216	△ 7,024
現金および 現金同等物の期首残高	11,792	14,513
新規連結による現金 および現金同等物増加額	918	443
現金および 現金同等物の中間期末残高	12,493	7,932

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間貸借対照表(単独)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成20年9月30日現在)	前 期 (平成20年3月31日現在)	科 目	当中間期 (平成20年9月30日現在)	前 期 (平成20年3月31日現在)
資産の部	314,001	315,779	負債の部	175,031	175,820
流動資産	121,882	123,754	流動負債	99,329	77,659
現金・預金	7,073	4,979	買掛金	24,123	24,438
受取手形および売掛金	55,395	66,437	短期借入金	16,263	10,263
商品・製品・半製品	26,883	25,058	社債(1年以内償還)	20,000	—
原材料	16,044	12,314	コマーシャルペーパー	5,000	6,000
仕掛品	1,755	1,985	リース債務(1年以内)	46	—
繰延税金資産	5,735	6,108	未払金	8,152	7,505
その他の流動資産	9,007	6,884	未払費用	9,942	10,360
貸倒引当金	△ 13	△ 15	未払法人税等	472	2,208
固定資産	192,119	192,025	賞与引当金	3,434	3,411
有形固定資産	124,020	121,961	返品調整引当金	250	270
建物および構築物	65,495	64,920	売上割戻引当金	4,821	5,213
機械装置	33,811	31,194	その他の流動負債	6,822	7,988
車両運搬具	87	91	固定負債	75,702	98,160
工具器具備品	1,640	1,471	社債	35,000	55,000
土地	21,565	21,584	長期借入金	18,349	18,663
リース資産(有形)	217	—	リース債務(長期)	182	—
建設仮勘定	1,202	2,698	長期繰延税金負債	10,109	10,752
無形固定資産	2,243	2,656	退職給付引当金	9,417	10,307
投資その他の資産	65,854	67,408	役員退職慰労引当金	186	206
投資有価証券	29,426	31,922	債務保証損失引当金	271	271
関係会社株式	24,157	24,157	その他の固定負債	2,186	2,959
出資金	508	500	純資産の部	138,969	139,959
関係会社出資金	6,102	6,102	株主資本	133,156	133,433
長期貸付金	4,837	3,937	資本金	28,363	28,363
その他の投資	1,740	1,705	資本剰余金	34,945	34,947
貸倒引当金	△ 917	△ 917	資本準備金	34,935	34,935
資産合計	314,001	315,779	その他資本剰余金	10	12
			利益剰余金	73,402	73,651
			利益準備金	7,090	7,090
			その他利益剰余金	66,311	66,561
			固定資産圧縮積立金	20,521	20,521
			別途積立金	42,000	39,000
			繰越利益剰余金	3,790	7,039
			自己株式	△ 3,555	△ 3,530
			評価・換算差額等	5,813	6,526
			その他有価証券評価差額金	7,680	8,411
			繰延ヘッジ損益	△ 1,866	△ 1,885
			負債および純資産合計	314,001	315,779

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 207,267百万円 203,158百万円
 2. 受取手形割引高 95百万円 99百万円
 (備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書(単独)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)
売 上 高	138,643	136,577
売 上 原 価	70,453	67,459
返品調整引当金戻入額	20	40
売 上 総 利 益	68,210	69,157
販売費および一般管理費	67,414	67,012
営 業 利 益	796	2,145
営 業 外 収 益	2,413	2,151
受取利息・配当金	1,492	1,462
雑 収 入	920	689
営 業 外 費 用	875	1,329
支 払 利 息	751	651
雑 損	124	678
経 常 利 益	2,333	2,967
特 別 利 益	180	1,838
固定資産売却益	162	1,356
投資有価証券売却益	—	423
その他の特別利益	17	58
特 別 損 失	838	677
固定資産廃棄損	367	482
投資有価証券評価損	258	—
たな卸資産評価損	176	—
関係会社株式評価損	—	99
その他の特別損失	37	94
税引前中間純利益	1,675	4,127
法人税、住民税および事業税	373	495
法人税等調整額	225	1,112
中 間 純 利 益	1,077	2,520

(注) 1株当たりの中間純利益

2円84銭

6円65銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

フード&ヘルスケア

●フランホイップス (苺、キャラメル)

フランの原点である“ホイップ”にこだわり、極限まで軽くふんわりとさせたホワイトショコラをココア味のビスケット軸にたっぷりコートしました。

「フランホイップス 苺」はフルーティな香りあふれる粒々苺ショコラでカバーし、「フランホイップスキャラメル」は香ばしい粒々マカダミア入りのキャラメルミルクショコラでカバーしました。



EXILE

●キシリッシュカラーボトル (クリスタルミント、フルーティミント、フレッシュレモン)

息、透きとおる! W (ダブル) で息・キレイ! ミントリープラス カラーゼ配合で噛み心地とスッキリ感を改良。

定番のミドルミントタイプのクリスタルミント、ジューシーな味わいを強めて登場のフルーティなライトミントタイプのフルーティミントと、爽快レモンフレーバーのフレッシュレモンの3品がオフィス、家庭、車内に便利な、華やかに彩るカラーボトルで登場です。



木村 拓哉

●ガルボチップス

ザクザク食感!なのにチョコたっぷり! チョコを焼き菓子にぎゅっと染みこませる独自の製法で、ザクザク噛むたびにチョコの濃厚な味わいが広がる、新感覚のガルボができました。



広末 涼子

●カールお好み焼きあじ

和田アキ子さんプロデュースの「アッコ風お好み焼き味」が登場!

カールのイメージキャラクターの和田アキさんがカールのお好み焼き味をプロデュース。完成品を召し上がった和田さんが「これめっちゃウマイやん!」ともらしたおいしさを是非体験してください。



●じゃがママ ベッパーソルト

じゃがいものおいしさをそのままスナックに! フレンチフライをイメージした楕型のポテトスナックです。ノンフライならではのざっくりした歯ごたえが楽しめます。

皮付きポテトをイメージした焼き色とこんがり感もリアルに再現。シンプルながら、濃厚なベッパーソルト味がポテトの風味を引き立てます。



●アミノコラーゲンプレミアム

アミコラの基本配合に「ヒアルロン酸60mg」、「COQ10 10mg」を求められる美容のための成分としてさらにプラス配合した、商品です。



●ザバス アミノ2000

「大豆ペプチド」をベースとしたタブレットで、運動後のスムーズなリカバリーに必要なアミノ酸を凝縮したタブレットです。



●パーフェクトプラス
ダイエットビスケット 黒ごま

太りたくない人がカロリーをコントロールしながら、おいしく、おやつ感覚で食べられる黒ごま味のダイエットビスケットです。



●コクがおいしいミルクココア

独自の「2段ロースト製法」(特許出願中)と「焦がしミルクで」、理想のコクと香りを追求したミルクココアです。



●銀座カリーチーズと舞茸

本格洋食屋仕立てのソースに、とろけるチーズと食感の良い舞茸をトッピングした期間限定の銀座カリーです。



●イソジンうがい薬P

今年で発売25周年を迎えたトップブランドの「イソジン」に、女性や子供でも使いやすい新フレーバーを発売。後味さわやか「ほんのりフルーティー」。

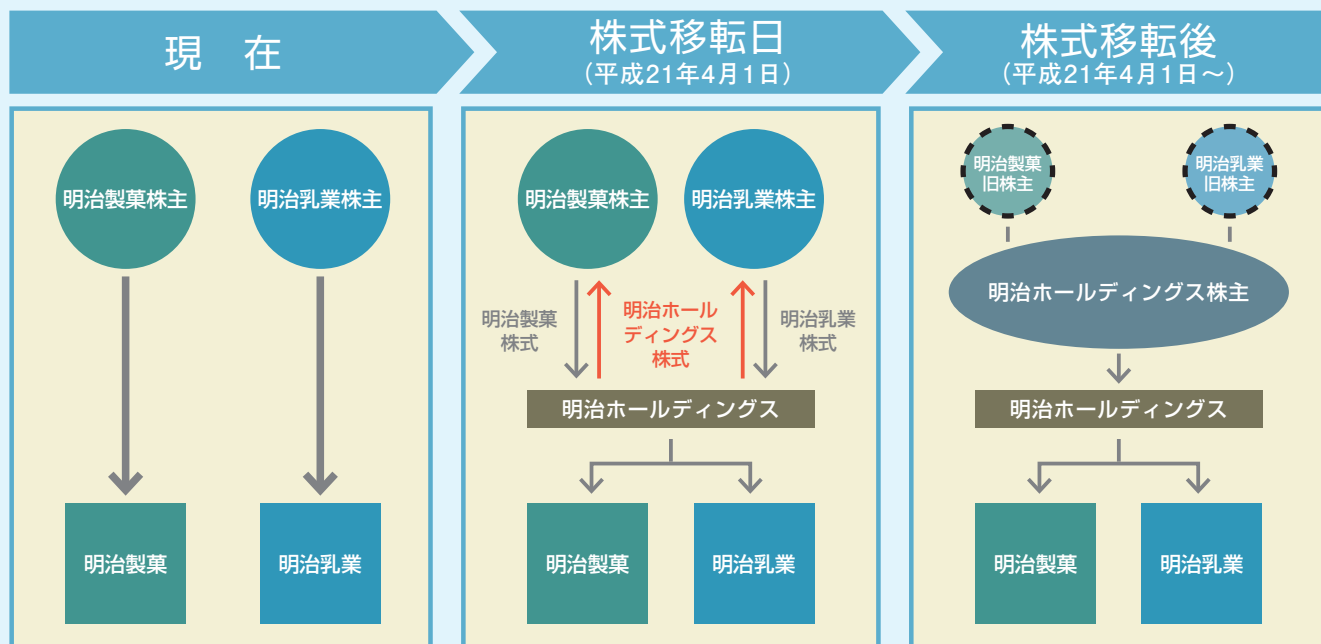


明治乳業との経営統合について

当社と明治乳業株式会社は、共同株式移転の方法により両社の完全親会社「明治ホールディングス株式会社」（以下「明治ホールディングス」）を設立することについて合意に達し、平成20年9月11日付けで、本株式移転に関する「株式移転計画書」を作成し、両社の経営統合に関する「統合契約書」を締結いたしました。

以下にその概要についてお知らせいたします。

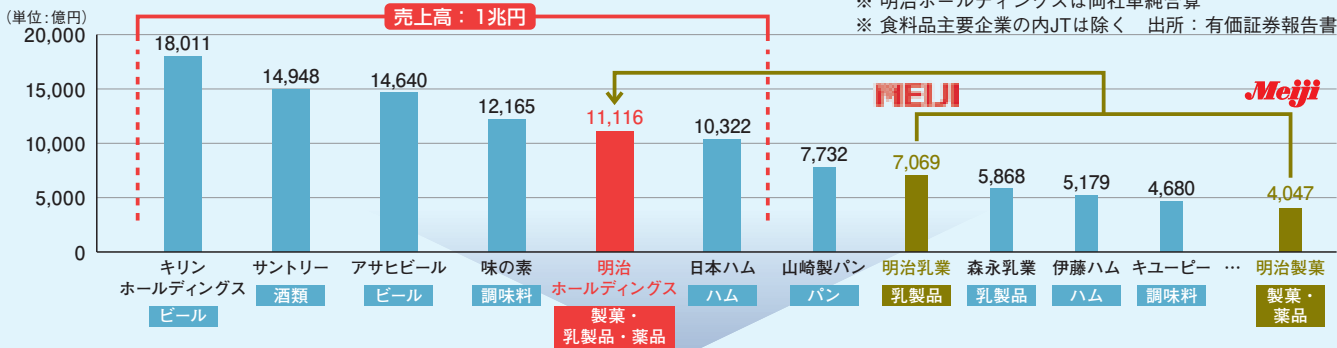
経営統合の概要



新会社の概要

商号	明治ホールディングス株式会社 (英文名称 MEIJI Holdings Co., Ltd.)	統合の方法	共同株式移転による
資本金	300億円	割当交付株式数	明治製菓普通株式1株に対し共同持株会社普通株式0.1株 明治乳業普通株式1株に対し共同持株会社普通株式0.117株 ※共同持株会社の単元株式数は、100株といたします。
本店所在地	東京都中央区京橋二丁目4番16号	上場取引所	東京証券取引所
設立年月日	平成21年4月1日		

明治ホールディングスのポジショニング



売上高1兆円を超える“食と健康のリーディングカンパニーへ”

明治ホールディングスの目指す姿

明治ホールディングスのビジョン

「おいしい・楽しい」、「健康・栄養」、「安全・安心」
 をあらゆる世代のお客様へ提供する世界有数の「食と健康」企業グループへの飛躍

明治ブランドの価値ならびに既存事業の強化

「食と健康」分野における高付加価値商品の提供および新たな市場の創造

競争力と収益性の向上

中期目標イメージ (2011年度連結)

売上高

1兆3,000億円程度

経常利益

500億円程度

(2007年度売上高: 1兆1,116億円)

(2007年度経常利益: 277億円)

統合後のグループ中期経営計画 (3ヵ年) は2009年5月までに発表予定

※ 2007年度数値は明治製菓、明治乳業の連結本決算数値を単純合算

統合によるシナジー効果

明治ホールディングスでは、以下の5項目をテーマにシナジー効果の創出に邁進してまいります。

シナジー ① 新生「明治」ブランドの価値向上および既存事業の強化

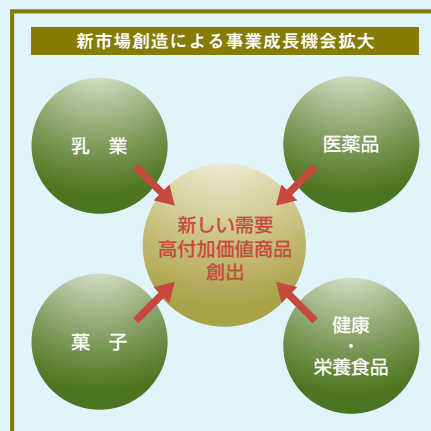
両社が築いてきたお客様との強い信頼関係を基盤に新生「明治」ブランドの価値向上と既存事業の強化と発展に取り組みます。

「最も身近で愛されるブランド」「常に安全、安心な信頼のブランド」



シナジー ② 新たな需要の創造による事業成長機会の拡大

- 幅広い分野にわたって両社が蓄積してきた基盤技術、商品開発、生産技術、品質分析、知的財産や医薬研究の成果・知見を融合することによる事業成長機会の拡大
→ リーディングカンパニー同士の「強み」の融合
- 新生「明治」ブランドとして、中国を始めとするアジア市場等、海外成長市場での積極的な事業展開



シナジー 3 マーケティング力強化による競争力向上

全
ラ
イ
フ
ス
で
の
競
争
力
向
上

プロダクト ブランディング	両社の保有するプロダクト・ブランド等ブランドイメージを有効活用
マーケティング	両社のノウハウ活用による効果的な広告・宣伝や横断的キャンペーン等の展開
営業	営業部門の協働による企画提案力、店頭フォロー力向上
流通	両社が強みを持つ販売チャネルの相互補完および有効活用

シナジー 4 業務効率化とコストシナジー

- 原材料の共同購買による調達コストの低減
- 物流システム等の相互利用による効率化
- 類似重複業務の集約、一元化、標準化による効率化
- 基幹システムの将来的な統合による業務効率の向上と投資負担の軽減

シナジー 5 事業基盤・財務基盤の優位性強化

リーディングカンパニー同士の経営統合によるスケールメリットの享受

新「明治」グループとしての信用力、資金調達力の強化

国内外におけるプレゼンス向上、戦略的アライアンスへの対応力強化

売上高：約1兆1,000億円、総資産：約7,400億円、純資産：約3,000億円（単純合算）
菓子・乳製品等において多数のシェアNo.1商品

Meiji

売上高	4,047億円
総資産	3,486億円
純資産	1,551億円
シェアNo.1	チョコレート、グミキャンデー、うがい薬

+

MEIJI

売上高	7,069億円
総資産	3,901億円
純資産	1,474億円
シェアNo.1	飲用牛乳、ヨーグルト、粉ミルク

※ 両者の財務数値は2007年度連結本決算数値

POKKA プロジェクト報告 (コクがおいしいミルクココア&カール)

当社では、本年1月に株式会社ポッカコーポレーション(以下「ポッカ」)と包括的な資本・業務提携契約を締結し、両社の強みを活かした様々な取組みを進めております。両社で設置したプロジェクトチームでは、開発、営業、調達、生産、物流など幅広い分野で検討を進めておりますが、その中からいくつかの取組みをご紹介します。



資本業務提携



1 新生明治ミルクココアから缶飲料も登場!

～ポッカとの初の共同開発商品～

新生明治ミルクココアの発売に併せ、自動販売機を始めとして飲料事業に強みを持つポッカの販売ルートを活用し、「コクがおいしいミルクココア 280g缶/195gカートカン」を発売いたしました。

ココア飲料は平成16年から売上が拡大傾向にあり、今後も伸長が期待される市場です。従来からの粉末タイプと缶などの飲料タイプの組み合わせで、ココア市場における大幅なシェアアップを狙ってまいります。



280g缶



195gカートカン



藤原 紀香

2 「カール」と「じっくりコトコト煮込んだスープ」の とびきりおいしいコラボレーション!

ふっくらサクサク軽い食感が人気の「カール」とポッカの主カブランド「じっくりコトコト煮込んだスープ」のコラボレーション商品「カール(ポッカスープ)コーンポタージュ味/カール(ポッカスープ)クラムチャウダー味」を発売しました。

カール発売40周年とスープ需要期という絶好のタイミングでのコラボレーションで、両ブランドの売上拡大とイメージ向上を図ります。





かけがえのない未来に向けて

■ 「CSR報告書2008」発行

本年9月に明治製菓グループのCSR活動を記載した「CSR報告書2008」を発行いたしました。明治製菓グループのCSR推進テーマは、6つの分野（品質・コンプライアンス・リスクマネジメント・環境・社会貢献・情報）を重点としており、この6分野を中心に取組み内容を報告しています。

なお、この「CSR報告書2008」は当社ホームページでご覧いただくことができます。

<http://www.meiji.co.jp/csr/index.html>

■ 報告書のポイント

重点6分野のほかにも、「事業概要」、「コーポレートガバナンス」、「ワーク・ライフ・バランス」、「安全衛生」、「カカオ原産国とのパートナーシップ」等を紹介しています。

また、特集として見開き6ページを設け、幅広い年代の方にご覧いただけるよう、漫画を使い、菓子・薬品それぞれの工場見学の中で、品質管理や環境への配慮、リスクマネジメントの工夫について触れています。



■ 2007年度の環境負荷

報告書にも掲載しておりますが、当社の2007年度の二酸化炭素排出量は、1990年度に比較して32%削減しており、京都議定書での日本の義務である6%削減を大きく上回っております。また、フード&ヘルスケア事業傘下の3工場（関東・東海・大阪）におきましては、ゼロエミッションを継続しています。



株主優待 ご寄贈結果のご報告および訪問レポート

● ご寄贈結果のご報告

当社では、平成18年度より、株主様より株主優待品の福祉団体へのご寄贈にご賛同いただきました優待品とそのお気持ちを福祉団体へご寄贈させていただいております。

今年度は、全国の障がいを持つ児童を中心とした支援団体等、合計116団体へ特定非営利活動法人日本NPOセンターを通じ、ご寄贈させていただきました。

<今年度実績> ●ご寄贈にご賛同いただきました株主様：1,213名
●株主様からご寄贈いただきました相当金額：356万円
(なお、当社からも同額相当分寄贈させていただいておりますので、**合計712万円相当分の寄贈**をしております。)

● 寄贈先訪問レポートvol.1～金町学園

東京都葛飾区にある社会福祉法人金町学園を訪問しました。こちらは、手話によりコミュニケーションをとりながら自立支援をする学園で、生徒の皆さんは絶えず笑顔で楽しそうに会話をしている、アットホームな印象を受けました。

訪問当日は寄贈品の贈呈式を開催して、職員の方の手話の通訳によりコミュニケーションをとりながら、株主様よりご寄贈いただいた当社のお菓子を楽しんでいただきました。



● 寄贈先訪問レポートvol.2～苗場つぼみの会

神奈川県横浜市にある特定非営利活動法人苗場つぼみの会を訪問しました。こちらは、障がいのある小学生から高校生が放課後や週末に集まって活動する場所で、地域や保護者同士の時間も大切にしている団体として活動しています。

生徒の皆さんは大変活発で、寄贈したお菓子に大変興味を持ち、身振り手振りで食べていいのかと聞きながら、嬉しそうにお菓子を抱えて食べていました。



今年度も、当社のCSR活動の一環としてこの寄贈選択制度を実施いたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

役員

(平成20年9月30日現在)

●取締役および監査役

※	代表取締役	役員	佐高	藤橋	尚昭	忠男
※	代表取締役	役員	高松	橋尾	正治	彦彦
※	専任取締役	役員	塚松	西長	政治	信幸
※	専任取締役	役員	森松	長	宏政	史幸
※	専任取締役	役員	溝矢	口嶋	祥宏	彦彦
※	専任取締役	役員	工藤	井口	英祥	敏正
※	専任取締役	役員	森山	野	利知	夏男
※	専任取締役	役員	星	野	健修	一邦
	常任監査役	役員				
	常任監査役	役員				
	監査役	役員				
	監査役	役員				

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

●執行役員

常務執行役員	真壁	理樹
常務執行役員	高橋	秀美
常務執行役員	佐藤	豊昭
常務執行役員	小村	定仁
執行役員	内田	文雄
執行役員	横路	論紀
執行役員	中野	良治
執行役員	河野	慎二
執行役員	中森	幾雄
執行役員	荒松	春造
執行役員	小田	隆央
執行役員	浅田	容晴
執行役員	下木	統明
執行役員	上坂	文保
執行役員	古川	純一
執行役員	大谷	文二
執行役員	神村	昭安
執行役員	左井	理郎

従業員

(平成20年9月30日現在)

従業員数(前期比)	平均年齢	平均勤続年数
3,866名(26名増)	40.0歳	16.6年

(注) 従業員数には当社から他社への出向者が含まれており、臨時従業員は含まれておりません。

主要な事業所

(平成20年9月30日現在)

本社

東京都中央区京橋二丁目4番16号

営業所

フード&スケア／北海道統括支店(札幌)、東北統括支店(仙台)、首都圏統括支店(東京)、北関東統括支店(宇都宮)、中部統括支店(名古屋)、関西統括支店(大阪)、中四国統括支店(広島)、九州統括支店(福岡)、健康事業北海道支店(札幌)、健康事業東北支店(仙台)、健康事業首都圏支店(東京)、健康事業北関東支店(宇都宮)、健康事業中部支店(名古屋)、健康事業関西支店(大阪)、健康事業中四国支店(広島)、健康事業九州支店(福岡)

薬品／薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店(さいたま)、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店(広島)、薬品四国支店(高松)、薬品福岡支店、農薬札幌支店ほか5農薬支店、動薬北日本支店(仙台)ほか3動薬支店

工場

フード&スケア／関東工場(坂戸)、東海工場(藤枝)、大阪工場(高槻)
薬品／北上工場、小田原工場、岐阜工場(北方)

研究所

フード&スケア／食料健康総合研究所(坂戸)
薬品／バイオサイエンス研究所(小田原)、医薬総合研究所(横浜)、生物産業研究所(横浜)

海外事務所

北京事務所、マドリッド事務所

(注) () 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。

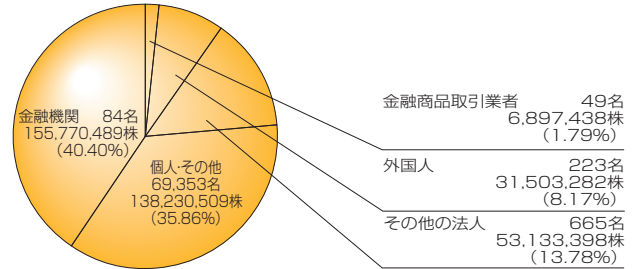
株式の状況

(平成20年9月30日現在)

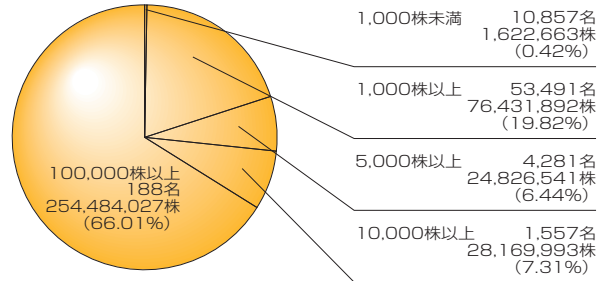
- 発行可能株式総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 株主数 70,374名 (前期末に比し1,819名減)
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (出資比率)
株式会社みずほ銀行	千株 18,763 (4.87%)
第一生命保険相互会社	16,163 (4.19)
日本生命保険相互会社	14,707 (3.81)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	14,312 (3.71)
明治乳業株式会社	10,811 (2.80)
富国生命保険相互会社	10,001 (2.59)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4G)	9,763 (2.53)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	9,745 (2.53)
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,804 (1.77)
東京海上日動火災保険株式会社	6,512 (1.69)

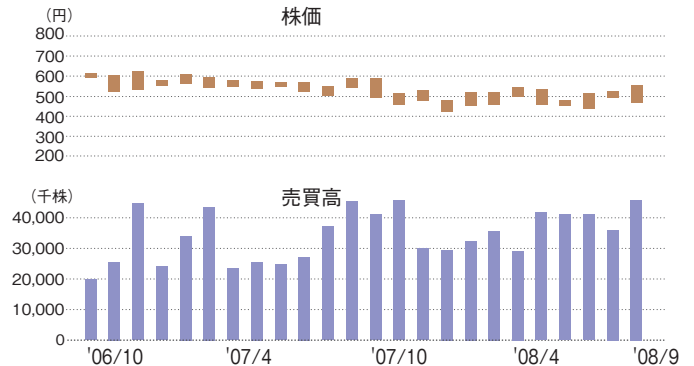
所有者別



持株数別



株価等の推移



事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
基準日 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
 ※別途定める場合は、予め公告します。

定時株主総会 6月下旬
公告方法 電子公告により行います。
 公告掲載URL <http://www.meiji.co.jp/>
 ただし事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
 なお、会社法第440条第4項の規定により決算公告は行っておりません。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部

**(電話お問い合わせ)
 (郵便物送付先)** 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店
 (下記ご注意ください)

**実質株主の諸届
 に関する特例** 届出の内容によって証券会社等を經由すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

単元株式数 1,000株

**単元未満株式の買取
 および買増請求場所** 株主名簿管理人事務取扱場所および同取次所
 (証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。)

(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて
 株券電子化後、株主様の各種手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。
 なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本店でお支払いいたします。

《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。
- 配当金をゆうちょ銀行の貯金口座へお振込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、株主名簿管理人に用紙をご請求ください。
- 当社は、単元未満株式の買増制度を導入しております。単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができます。制度の内容および手続の詳細につきましては株主名簿管理人にご照会ください。

■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を**10月末頃**に贈呈いたします。また、平成18年度より寄贈選択制度を設け、株主様のご意志により優待品を株主様へのご送付に代えて福祉団体へご寄贈いただくこともできることとしております。

- 1,000株以上：2,000円相当
- 3,000株以上：3,500円相当
- 5,000株以上：5,000円相当



●製品は一例です(3,500円相当)。

平成21年1月5日施行の株券電子化に伴うお知らせ

1. 特別口座について

(1) 特別口座への口座残高の記帳

保管振替制度をご利用でない株主様につきましては、ご所有の株式は三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます（平成21年1月26日に記録される予定です）。なお、特別口座に記録された株式数等のご案内は、平成21年2月中旬頃に、三菱UFJ信託銀行から、お届けのご住所宛にお送りする予定です。

(2) 特別口座に記録された株式に関するお手続き

特別口座に記録された株式に関するお手続き（株主様の口座への振替請求・単元未満株式買取（買増）請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等）につきましては、株券電子化実施後、下記口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）の連絡先にお問い合わせください。なお、特別口座に記録された株主様のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお取次ぎいたします。

(3) 特別口座の口座管理機関および連絡先

特別口座の口座管理機関は、当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行となります。

口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
電話 0120-232-711（フリーダイヤル）

(4) 特別口座の口座管理機関でのお手続きの受付の開始時期

特別口座に記録された株式についての、株主様の口座への振替請求、単元未満株式買取（買増）請求等の各種ご請求やお届出につきましては、平成21年1月26日（月）以降にお手続きが可能となりますので、ご注意ください。

2. 株券電子化前後における単元未満株式買取・買増のご請求について

株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求ならびに買増請求につきまして、以下のとおりとなりますので、ご注意ください。

(1) 保管振替制度をご利用でない単元未満株式に関するご請求

① 単元未満株式買取請求

平成21年1月5日（月）から平成21年1月25日（日）までは、受付をいたしません。

また、平成20年12月25日（木）から12月30日（火）までのご請求受付分につきましては、買取価格をご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを平成21年1月30日（金）とさせていただきます。

② 単元未満株式買増請求

平成20年12月12日（金）から平成21年1月25日（日）までは、受付をいたしません。

(2) 保管振替制度をご利用の単元未満株式に関するご請求

株券電子化実施の前後において、一定期間お取引の証券会社で取次ぎを行わないと承っております。具体的な日程につきましては、証券会社により異なることが考えられますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。

3. 株主様のご住所およびお名前のご登録について

株主様のご住所およびお名前の文字に、振替機関（証券保管振替機構）で指定されていない漢字等が含まれている場合には、その全部または一部を振替機関が指定した文字に置き換えのうえ、株主名簿にご登録いたします。この場合、株主様にお送りする通知物の宛名は、振替機関が指定した文字となりますのでご了承ください。

〈ご参考〉

株券電子化に関する詳細につきましては、証券決済制度改革推進センターのホームページに掲載されたQ&A（<http://www.kessaicenter.com/kaikaku/kabuken10aa.pdf>）等をご参照ください。

また、株券電子化に関するご質問・ご相談は、
「株券電子化」なんでも相談窓口（「株券電子化コールセンター（*）」）
電話 0120-77-0915（フリーダイヤル。平日・土曜／9：00～17：00）
までお問い合わせください。

（*）株券電子化コールセンターは、(株)証券保管振替機構、日本証券業協会、(株)東京証券取引所が共同で運営する株券電子化についての相談窓口です。

明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区京橋二丁目4番16号

電話 (03) 3272-6511 (代表)



ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)

